

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION

北経連会報 | Aug. 2025

No. 226



北陸は一つ。

CONTENTS

北経連会報

No.226 Aug 2025

2025年度定期総会

2025年度定期総会	01
会長挨拶	02
活動報告	04
2025年度 北経連スケジュール / 北陸経済連合会《事務局》	20
新会員のご紹介 / 新規会員ご紹介のお願い	21



2025年度定期総会・ 第116回理事会・特別講演

日時：6月3日（火）13:30-16:30
場所：ANAクラウンプラザホテル金沢
参加：171名（会場132名、オンライン39名）

定期総会では会長挨拶に続き、以下の4議案について審議され、原案のとおり承認された。

- ①2024年度事業報告および決算(案)
- ②能登地域会員の2025年度会費免除(案)
- ③2025年度事業計画および収支予算(案)
- ④役員選任(案)

続く第116回理事会では、役付理事・参与選任(案)が審議され、原案のとおり承認された。

＜常任理事（4名）の交代＞
(株)インテック 北岡隆之氏 ⇒ 疋田秀三氏
中村留精密工業(株) 中村健一氏 ⇒ 深山泰輔氏
(株)北國新聞社 砂塚隆広氏 ⇒ 小中寿一郎氏
小松ウォール工業(株) 加納裕氏 ⇒ 加納慎也氏
＜常務理事・事務局長の交代（6/26付）＞
牧野正広 ⇒ 魚屋敦司

この後、京都大学大学院工学研究科教授の藤井聡氏が『北陸新幹線・京都大阪接続による北陸強靱化、国土強靱化』と題して特別講演を行った。

藤井氏は、南海トラフ地震等による太平洋側有事への備えとして「小浜・京都ルート」による大阪延伸を先行的に行えば、有事後の復旧・復興の早期化が図られ、費用の抑制効果があること、また経済波及効果の面でも、「小浜・京都ルート」は圧倒的に経済効果が高いと指摘した。



北陸経済連合会 設立の経緯

1967年、「北陸は一つ」との認識のもと、北陸の経済人が結集し、経済人の創意のもとに北陸の発展可能性を追求し、公正なる見解をとりまとめ、その実現に努力する場」として北陸経済連合会が設立されました。

会長挨拶

はじめに

皆様、本日は大変ご多用のところ、北陸経済連合会定期総会にご出席をいただきまして、大変ありがとうございます。

また、日頃から当会の活動に対しまして、格別のご高配を賜っております。重ねて御礼を申し上げます。

定期総会議案の審議に入ります前に、最近の情勢等につきまして簡単に話をさせていただきたいと思っております。

日本の経済情勢

まずはじめに、日本の経済情勢についてであります。

5月の政府月例経済報告によれば、国内の景気判断を「緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感が見られる」として、4月から表現を据え置いております。また、先行きにつきましては「米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている」としております。

このように、足元の経済、実体経済への米国の関税政策の影響は現在のところ限定的であります。先行きの見通しに対しては同政策の不透明さの影響が大きくなってまいります。

また、北陸経済につきましては、5月の日銀金沢支店 金融経済月報では「一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している」として、景気判断は前月から据え置かれております。設備投資につきましては「増加している」から「緩やかに増加している」と、4年10か月ぶりに判断が引き下げられておりますが、これも資材高、人手不足やアメリカの関税政策による先行きの不透明感が影響しているものとみております。

また、アメリカ国際貿易裁判所の違法判断もありまして、高関税政策が今後どのようになるか予断を許さない状況であります。自動車、鉄鋼、アルミ製品などへの追加関税はす

でに発動されておりました。今後の影響が強く懸念されることでもあります。

特に、この関税政策により、米国では物価上昇と需要減退、また、先行きの不透明感や米国の投資先としての魅力の減少による投資の停滞などが指摘されております。これらの影響は世界全体に及ぶものとみております。また国内におきましても同様に、輸出の低迷を通して、投資、雇用、賃上げ、個人消費などへの影響が懸念されます。特に北陸地域は製造業の比率が高いことから、注意が必要であります。

これに対しまして、政府では4月25日に、企業の資金繰りや雇用維持の支援などを柱とした緊急対応パッケージをまとめており、また、富山、石川、福井の各県でも、情報収集や対応策の検討等を行う対策会議が設置され、プッシュ型の支援として必要な対応が行われております。

当会といたしましても、各会員企業からの要望を取りまとめ、政府をはじめ関係機関に要請を行っていきたくと考えております。

北陸新幹線

次に、北陸新幹線についてであります。

北陸新幹線の金沢開業から10年、また、敦賀延伸から1年余りが経過いたしました。

北陸新幹線の開業により、北陸と首都圏との時間的距離



が縮まるとともに、北陸三県の主要都市が概ね1時間で結ばれることとなり、北陸域内での交流の活発化、観光客の増加、企業進出や投資の活性化など、非常に多くの効果が現れております。

こうした中で、喫緊に解決しなければならない課題が敦賀から新大阪までの延伸であります。

北陸新幹線には大きな経済波及効果とともに、国土強靱化の観点から、大規模地震など太平洋側の有事に備え、首都圏と関西圏を結ぶ東海道新幹線の代替機能の確保、さらには日本海国土軸の形成など、多くの機能が期待されております。

特に、昨年の台風や大雨の影響で東海道新幹線の運転見合わせが相次いだ際や、南海トラフ地震臨時情報が初めて発表された際には、北陸新幹線が東海道新幹線の代替として大活躍し、その重要性が強く認識されました。

さらに、経済波及効果の観点でも、大阪までの全線開業により、年間約2,700億円にのぼる非常に大きな経済波及効果が見込まれますが、これらの効果は、新大阪まで東海道新幹線とは完全に別ルートで結んではじめて最大限発揮されるものであります。

敦賀・新大阪間につきましては、現在、環境影響評価に加え、駅の位置や工法の検討に必要な調査を先行的・集中的に実施する「北陸新幹線事業推進調査」が進められております。

昨年8月には、国土交通省から小浜・京都ルートに関する詳細な駅位置・ルート案などが示され、年末には2案に絞られました。

また、本年3月には国土交通省と鉄道・運輸機構による京都府内の自治体を対象とした小浜・京都ルートに関する説明会が行われるなど、地元の不安払拭に向けた取り組みが進め

られております。

当会といたしましては、敦賀・新大阪間の一日も早い認可・着工を実現するため、現在2案残っているルート案を早急に1案に絞り込み、詳細な駅位置・ルートを決定し、併せて着工5条件等の諸課題を解決いただくよう強く求めています。引き続き、北陸三県や関西の経済団体と緊密に連携し、関西での早期全線開業を望む機運醸成に全力で取り組んでまいります。

大阪・関西万博

次に、大阪・関西万博についてであります。

開幕から2か月弱が経過いたしました。当会ではこれまで、経団連や他地域の経済連合会などとともに、事前の機運醸成などに鋭意取り組んでおりましたが、幸いここへきてSNSでの評価も良くなってきているように思います。

今回の万博は国際事務局に登録した万博でありまして、国内のみならず海外から多くのパビリオンが展示されております。また、皆様ご承知の通り、参加を辞退したイランが使用する予定でありました建物内に、能登半島地震の際に奇跡的に被害を免れた輪島塗の大きな地球儀が展示されております。輪島塗の技巧の精緻さや素晴らしさを世界の人々に見ていただく良い機会であるとともに、能登復興の一助になればと思っております。地球儀は予約の必要がありませんので、ぜひ皆様方にもご覧いただきたいと思っております。

以上、最近の情勢等について話をいたしました。

本年度も引き続き皆様方の変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

それでは、本日はどうぞよろしく願いいたします。

以上

2025年	3月17日(月)	福井県主催・北経連共催 北陸三県連携による省エネセミナー	P.05
	3月14日(金)	経団連主催・北経連共催 第29回 Keidanren Innovation Crossing	P.05
	3月24日(月)	国際委員会	P.05
	3月25日(火)	新たな価値創出委員会	P.06
	4月2日(水)	社会基盤委員会	P.06
	4月2日(水)	観光委員会	P.07
	4月4日(金)	人財活躍推進委員会	P.07
	4月15日(火)	総合対策委員会	P.08
	4月17日(木)	第六次中期アクションプラン策定検討WG 第1回オンライン講演会	P.08
	4月17日(木)	第六次中期アクションプラン策定検討WG	P.09
	4月20日(日)	第4回 アジアビジネス創出(ABC)プラットフォーム全体会議	P.09
	5月13日(火)	第115回理事会・第364回常任理事会 合同会議	P.10
	5月7日(水)	富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会 合同決起大会	P.10
	5月9日(金)	政府予算等に対する要望WG(第1回)	P.10
	5月12日(月)	北陸新幹線建設促進大会・令和7年度北陸新幹線建設促進同盟会総会	P.11
	5月12日(月)	北陸新幹線建設促進大会・令和7年度北陸新幹線建設促進同盟会等合同中央要請	P.11
	5月22日(木)	第六次中期アクションプラン策定検討WG 第2回オンライン講演会	P.12
	5月22日(木)	第六次中期アクションプラン策定検討WG【第2回テーマ:CN、GX】	P.12
	5月30日(金)	カーボンニュートラルBASE北陸 勉強会【テーマ:補助金・水素】	P.13
	6月1日(日)	令和7年度福井県北陸新幹線建設促進 同盟会総会	P.13
	6月6日(金)	第六次中期アクションプラン策定検討WG 第3回オンライン講演会	P.14
	6月6日(金)	第六次中期アクションプラン策定検討WG【第3回テーマ:DX、スタートアップ】	P.14
	6月16日(月)	第六次中期アクションプラン策定検討WG【第4回テーマ:DEI、ウェルビーイング】	P.15
	6月19日(木)～20日(金)	西日本経済協議会広域観光分科会	P.15
	6月25日(水)	能登地域の経済復興に向けた座談会	P.16
	6月30日(月)	第1回 海外現地情勢報告セミナー ～ベトナム工業団地～	P.16
	7月3日(木)～4日(金)	ベトナム戦略的幹部研修	P.17
	7月4日(金)	ベトナム政府高官との交流懇親会	P.18
	7月4日(金)	2025年度第1回総合対策委員会	P.18
	7月11日(金)	北陸三県港湾利活用担当者勉強会	P.18
	7月15日(火)	第365回常任理事会	P.19
	7月16日(水)	「ツーリズムEXPOジャパン愛知・中部北陸」開催概要発表会見・第3回 開催地連絡協議会	P.19

福井県主催・北経連共催 北陸三県連携による省エネセミナー

日時:3月17日(月) 13:30-16:30
場所:福井県国際交流会館(オンライン併催)
参加:160名(会場71名、オンライン89名)

福井県と北経連は、カーボンニュートラル(CN)に関するセミナーを共催した。第一部では、北陸の先進企業3社が自社の取組みについて、環境省が補助金活用について紹介。第二部のパネルディスカッションでは北陸のCN実現に向けた方策について議論された。

登壇企業:
福井鋳螺(株)、コマニー(株)、(株)HARITA、
環境省、福井県

<主な発言>

- ・大企業からサプライチェーン(取引先)に連携を呼びかけ、補助金も活用し、対話を重視した「寄り添い活動」を展開することがCN推進に不可欠。
- ・コンソーシアム等の連携が、出会いの場や取引先拡大機会となっており、今後も活用していきたい。

経団連主催・北経連共催 第29回Keidanren Innovation Crossing

日時:3月14日(金) 16:00-17:30
場所:経団連会館(東京・大手町)
参加:60名

経団連のピッチイベントKIXを北経連が共催した。北陸発スタートアップ6社が登壇し、大企業との連携を呼びかけた。ピッチ終了後、登壇者と参加した大企業等の関係者が活発に交流した。

- <登壇したスタートアップ(製品・サービス)>
- ・アルム(株):切削加工を全自動化する製造AI「ARUMCODEI」
 - ・イントロン・スペース(株):高齢者排泄の問題解決に繋がる尿漏れケア製品「TIMESHIFT」
 - ・(株)NK SkyTech Solutions:ドローン運用をサポートする飛行日誌作成サービス「Touch de 飛行日誌」
 - ・(株)笑農和(えのわ):水田の水管理を遠隔・自動化するスマート水田サービス「paditch」
 - ・(株)Dioptra:AI・位置情報を活用したインフラ点検・維持管理支援アプリ
 - ・ファーマランタ(株):合成生物学を活用し、医薬品や化粧品等の植物由来原料を効率的に生産する技術



国際委員会

日時:3月24日(月) 12:20-14:00
場所:金沢ニューグランドホテル
参加:12名(会場6名、オンライン6名)

高納委員長は冒頭挨拶で、世界経済は概ね安定して推移すると見込まれるが、米トランプ政権の関税引き上げなど通商政策が大きく変化すれば、世界経済の不確実性が一層増す可能性があるため注意が必要だと指摘した。

委員会では、2024年度事業計画の実施状況、2025年度事業計画(案)、第五次中期アクションプランの実施評価と第六次の方向性について審議した。

活動報告

第21回北陸（日本）・韓国経済交流会議の開催や、ベトナムのビジネス環境調査、外国人留学生の北陸地域への定着促進、高度外国人材の活用等に関して幅広い視点から活発な意見交換がなされた。今後の海外展開の有望市場として、ベトナムに続きインドに期待する声も寄せられた。これらの意見を今後の事業活動に鋭意反映させていきたい。



新たな価値創出委員会

日時：3月25日（火）15:30-17:00
場所：ANAクラウンプラザホテル金沢
参加：19名（会場16名、オンライン3名）

北村委員長は冒頭挨拶で、自身が渡米時に感じたトランプ政権の現地の受け止めに触れ、「度重なる政策変更で不信感を持つ国民が多い一方、環境を重視したEV偏重政策で不況に陥る自動車業界等は変化に期待している。」「これら不確実性に対し、日本は柔軟かつ戦略的な対応が求められる。」と述べた。

委員会では、2024年度事業計画の実施状況、2025年度事業計画(案)、第五次中期アクションプランの実績評価と第六次の方向性について審議した。

北陸の大学発スタートアップ創出プラットフォーム「テックスタートアップ北陸」(TeSH)、高いシェアを誇る北陸企業を紹介する「シェアトップ150」の活用、設備投資促進と地域経済循環、売上増加のプライシング戦略、DXと人手不足対策、能登半島地震を踏まえ

たBCP対策等、幅広い視点から活発な意見交換がなされた。これらの意見を今後の事業活動に鋭意反映させていきたい。



社会基盤委員会

日時：4月2日（水）16:00-17:30
場所：ANAクラウンプラザホテル金沢
参加：14名（会場11名、オンライン3名）

光野委員長は冒頭挨拶で、能登半島地震からの復旧・復興が着実に進む中、防災・減災対策の強化や災害に強い社会基盤の整備に取り組むとした。また、北陸新幹線の顕著な延伸効果の継続、インフラの老朽化や物流の労働力不足への対策が急務と述べた。

委員会では、2024年度事業計画の実施状況と2025年度事業計画(案)、第五次中期アクションプランの実績評価および六次の方向性について審議した。

委員からは、「のと里山海道の4車線化」による能登への移動時間短縮の必要性、北陸道での自動運転実証、CNとセットになった港湾PR、インフラを支える技術者や二次交通の路線・人材確保等、幅広い視点から活発な意見交換がなされた。これらの意見を今後の事業活動に鋭意反映させていきたい。



観光委員会

日時：4月2日（水）15:00-18:30
場所：金沢ニューグランドホテル（オンライン併催）
参加：20名（会場17名、オンライン3名）

米沢委員長は冒頭挨拶で、北陸で外国人観光客が増加し、今後の更なる増加に期待が高まる中、富裕層をターゲットとした事業者や行政の動きを総括し、先を見据えた踏み込んだ議論が必要とした。

委員会では、2025年度事業計画、第六次中期アクションプラン等について審議した。委員からは能登に関する情報発信、関西・中京からの誘客、北陸の知名度向上、外国人観光客への公共交通機関の利用・マナーの周知が必要などの意見が聞かれた、これらの意見を今後の事業活動に鋭意反映させていきたい。

委員会終了後は、「北陸インバウンド観光DX事業」について、金沢大学先端観光科学研究所 特任准教授の今洋佑氏が講演した。本事業では、北経連を含む産学官が連携し、デジタル技術の活用により北陸広域のインバウンド人流データを収集した。参加者からは、人流だけでなく購買行動等、更にマイクロなデータを期待する意見が寄せられた。調査結果は下記WEBサイトで誰でも利用可能。<https://tifdata.jp/>



人財活躍推進委員会

日時：4月4日（金）12:00-14:00
場所：金沢ニューグランドホテル（オンライン併催）
参加：11名（会場6名、オンライン5名）

林委員長は冒頭挨拶で、北陸の有効求人倍率が高止まりし続けている状況に触れ、有効求人倍率の高さは経済の強さを示す指標ではなく、もはや「人手不足倒産」等のリスクであると指摘した。

委員会では、2025年度事業計画、第六次中期アクションプラン等について審議した。委員からは「えるぼし認定」推進のより強いアクション、副業兼業の論点整理、男性育休の実効性の把握が必要などの意見が聞かれた。また、LGBTQの当事者が周囲の無理解から離職し、人材の損失に繋がった事例が自社であったことを踏まえ、経済団体として取組みが必要ではないかと問題提起された。

これらの意見を今後の事業活動に鋭意反映させていきたい。



活動報告

総合対策委員会

日時：4月15日(火) 15:00-18:00
場所：ANAクラウンプラザホテル金沢(オンライン併催)
参加：19名(会場13名、オンライン6名)

稲垣委員長は冒頭挨拶で、米国トランプ関税が米中貿易戦争を激化させるなど、世界経済の分断を招く恐れもあり、政府には米国への見直し訴求や国内企業への支援に万全を期して欲しいと述べた。また、開幕した大阪・関西万博で未来を感じた自身の経験を踏まえ、輪島塗の「夜の地球」も展示されているので、是非、早期に訪れて欲しいと呼び掛けた。

委員会では、2025年度事業計画、第六次中期アクションプラン等について審議した。委員からは、若者や女性の流出への長期的な取組み、域内経済循環、ストーリー性を持った情報発信等、幅広い視点から活発な意見交換がなされた。これらの意見を今後の事業活動に鋭意反映させていきたい。



第六次中期アクションプラン策定検討WG 第1回オンライン講演会

日時：4月17日(木) 15:00-16:00
参加：43名(現地13名、オンライン30名)

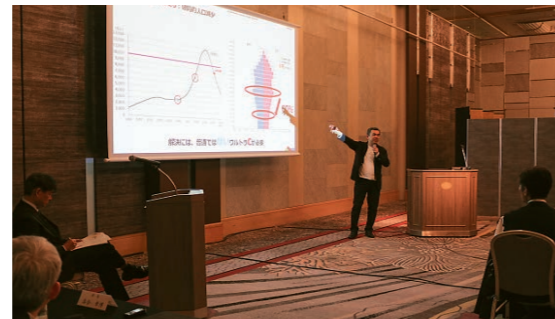
次期アクションプラン策定に向け、主要テーマについて有識者による講演会の開催を予定している(全4回)。

第1回として、AIデータ活用やスマートシティの第一人者である東京大学大学院教授の越塚登氏が、「世界のマクロトレンドを踏まえた『スマート・リージョン北陸』実現に向けた方策」と題して講演した。

これからのデジタル世界において、当会が掲げる近未来ビジョン「スマート・リージョン北陸」の実現を図るうえでの重要なヒントが得られ、参加者に元気を与える講演だった。

【主な内容】

- ・破局的に人口が減少する中、私たちの生活を変えるAIやビッグデータなどを駆使したDXによるイノベーションは確実に必要。
 - ・一方で、成熟した社会をつくるには、合理性や効率性だけでなく「北陸らしい」美意識や人間性が備わった「スマートさ」が重要。
 - ・「ココロの問題解決」が最大の経済対策。幸福(ウェルビーイング)を感じるために「スローデジタル・美しいデジタル」を活用し、道徳と両立する「心に響く美しい経済」で「AI=愛の地域・北陸」をつくろう。
- 第2回は、5月22日(木) 14:00～、経済産業省から講師を招き、「GX2040ビジョン」の全体像等についての講演を予定。



第六次中期 アクションプラン策定検討WG

日時：4月17日(木) 15:00-17:00
参加：13名(オスザーバー2名含む)

第六次中期アクションプラン(実施時期：2026～2030年度)策定に向け、第1回検討ワーキンググループ(WG)を開催した。

製造、通信、小売、エネルギー、金融、運輸、大学等のメンバーからは、オンライン講演会(講師：東京大学大学院教授 越塚登氏)の内容も踏まえ、新しいことへの挑戦、プレイヤー間の連携、北陸らしさ、尖った情報発信、バリューチェーン構築、若い世代が考える幸福のイメージ等、多彩なキーワードとともに、それぞれが考える「北陸の目指すべき姿」「実現の手段」等について意見が出された。

同席した稲垣総合対策委員長からは、次代の北陸を担って欲しいと力強いエールが送られた。終了後には交流会を実施し、参加者間で懇親を深めた。

WGは今後、CN・GX、DX、新事業創出、DEI、ウェルビーイング等をテーマに、「スマート・リージョン北陸」実現のためのアイデアや取組み、北経連の役割等について話し合う予定。



第4回 アジアビジネス創出(ABC) プラットフォーム全体会議

日時：4月20日(日) 14:00-17:30
場所：ヒルトン大阪
参加：72名
主催：(公社)関西経済連合会(以下、関経連)

関経連が2019年4月ASEAN7カ国の経済団体と連携、設立したABCプラットフォームの第4回全体会議がASEANの経済団体の幹部出席の下、開催された。本事業は西日本経済協議会国際分科会の連携事業の一つであり当会も参加。

会議では、7部会の活動(人材育成・活用、医療・介護、中堅・中小企業支援、農業、観光、環境、スタートアップ)、大阪・関西万博の報告、各国経済団体の代表者によるディスカッションが行われた。

また、各国経済団体から推薦され、日本企業との協業や日本市場に関心を持つ企業7社を支援する「ABC CHALLENGE サポートプログラム」(2022年度開始、当会はこれまで5社のマッチング実施)の成果も報告された。

関経連 松本会長は、これまでの情報共有・人材交流の成果も踏まえ、各国リーダーと共に関係者の英知・エネルギーを結集し、一段上の高みを目指すべきと述べた。



活動報告

第115回理事会・第364回 常任理事会 合同会議

日時：5月13日(火) 12:20-14:00
場所：金沢ニューグランドホテル
参加：66名(会場54名、オンライン12名)

2025年度定期総会に付議する2024年度事業報告・決算、能登地域会員の2025年度会費免除、2025年度事業計画・予算、役員選任ならびに同日開催する理事会に付議する役付理事・参与の各議案について審議し、原案どおり了承された。

役員人事については、常任理事1名の退任・理事就任(セーレン(株)代表取締役会長 最高経営責任者 川田達男氏)、常任理事2名の交代(株)インテック 取締役会長 北岡隆之氏から代表取締役社長 疋田秀三氏、小松ウオール工業(株)相談役 加納裕氏から代表取締役社長 加納慎也氏)が内定した。



富山県北陸新幹線対策連絡協 議会・北陸新幹線建設促進富 山県民協議会 合同決起大会

日時：5月7日(水) 15:30-16:30
場所：ANAクラウンスラザホテル富山

富山県の北陸新幹線対策連絡協議会・県民協議会の合同決起大会が開催され、北経連から金井会長、関西経済連合会から蔭山リニア・北陸新幹線専門委員

長など約140名が参加した。

新田富山県知事は、「大阪までの全線開業が一日も早く実現するよう、しっかりスクラムを組んで政府や関係機関に強気に働きかけていきたい」と述べた。

金井会長は、金沢開業から10年、敦賀延伸から1年が経過し、この間、観光客の増加、企業進出等、非常に大きな効果が出ていると述べた。また敦賀以西について、関係機関に対し、早期に詳細な駅位置・ルートを決定し、併せて着工5条件等の諸課題を解決するよう求めるとともに、関西での早期全線開業を望む機運醸成に全力で取り組むと決意を述べた。

大会は、敦賀以西の一日も早い認可・着工実現のため、沿線住民の理解促進や必要な予算確保等を強く求める決議を採択し、閉会した。



政府予算等に対する要望 WG(第1回)

日時：5月9日(金) 15:00-16:30
場所：ANAクラウンスラザホテル金沢
参加：30名(会場21名、オンライン9名)

今年度の「政府に対する北陸経済界からの要望書」の作成に向け、幅広い業種の会員企業の実務者クラスで構成するWGを開催し、事務局が作成した要望書の全体構成、新規要望事項の取り扱い等について議論した。

メンバーからは、「能登半島地震を教訓としたレジリエンス強化が重要」「深刻化する人材不足に対して、採用活動でもイノベーションを起こす仕掛けが必要」といった意見が出された。

今回の議論を踏まえ、第2回で要望書案を取りまとめ、7月の総合対策委員会、常任理事会を経て要望書を決定し、8月6日(水)に都内で政府与党、関係省庁等への要望活動を行う。

北陸新幹線建設促進大会・ 令和7年度北陸新幹線建設促 進同盟会総会 北陸新幹線建 設促進同盟会等合同中央要請

<大会・総会>
日時：5月12日(月) 10:30-11:50
場所：東京 都市センターホテル

大会には杉本福井県知事、馳石川県知事、新田富山県知事、三日月関西広域連合長(滋賀県知事)、関西経済連合会 松本会長、北経連の金井会長の他、沿線自治体の副知事、議会議長等が出席し、「小浜・京都ルート」の早期認可・着工を目指す決意を表明し、結束を確認した。

杉本知事は開会挨拶で、「北陸新幹線は国土強靱化に欠かせない社会基盤。沿線府県が一致団結して国家プロジェクトのために全力を挙げるべき」と述べた。

金井会長は北陸経済界の代表として、「北陸新幹線には大きな経済波及効果とともに、国土強靱化の観点から大規模地震など太平洋側の有事に備え、首都圏と関西圏を結ぶ東海道新幹線の代替機能の確保、さらには日本海国土軸の形成など多くの機能が期待されて

おり、これらの効果は東海道新幹線とは完全に別ルートで結んではじめて最大限発揮される」と述べ、駅位置・ルートの早期決定、着工5条件等の諸課題の解決を求めた。



<中央要請>
日時：5月12日(月) 13:30-18:00
場所：自民党本部、衆議院第二議員会館、
国土交通省、総務省、財務省

北陸新幹線の沿線10都府県でつくる北陸新幹線建設促進同盟会、沿線府県議会協議会、関西広域連合とともに、関西経済連合会の松本会長、北経連の金井会長が参加し、北陸新幹線の早期全線整備等について関係各所で要請した。

杉本福井県知事は、敦賀・新大阪間の一日も早い認可・着工を実現するため、「詳細な駅位置・ルートを一つ絞ること」、「財源の確保、費用対効果の検討をしていただき、着工5条件の早期解決を図ること」等について強く要請した。

金井会長は、「北陸新幹線は非常に経済波及効果が大きくて、かつ多くの人に利用していただいている」とし、「1日も早く大阪までつないで北陸と関西圏を直接結ぶことが、北陸にとって非常に大きな発展の起爆剤になる」と訴えた。

★要請先

- ・自民党 鈴木総務会長
- ・PT関係 渡海座長、稻田議員

活動報告

- ・公明党 竹内議員、中川北陸信越方面本部長
- ・国交省 古川国土交通副大臣
- ・総務省 富樫総務副大臣
- ・財務省 中山主計局次長



※写真は鈴木総務会長

第六次中期アクションプラン策定検討WG 第2回オンライン講演会

日 時：5月22日(木) 14:00-15:00
参 加：39名(現地10名、オンライン29名)

第六次中期アクションプラン(実施時期：2026～2030年度)策定に向け、主要テーマについて有識者による講演会を開催(全4回)。

第2回は、経済産業省GXグループの中原廣道環境政策課長が「我が国のGX施策について」と題して講演した。「GX2040ビジョン」「GX推進法・資源法(改正案)」の概要のみにとどまらず、米国・欧州等海外の最新動向や中小企業での推進に向けた制度や課題等、詳細な説明があった。

第3回は、6月6日(金)14:00～、(株)jig.jpの福野取締役創業者を招き、デジタル基盤を活用した生産革新や新事業創出に繋げるためのヒントを頂く予定。

第六次中期アクションプラン策定検討WG 【第2回テーマ：CN、GX】

日 時：5月22日(木) 14:00-16:15
場 所：ANAクラウンプラザホテル富山
参 加：10名

次期アクションプラン策定に向け、第2回検討WGを開催した。

製造、通信、小売、エネルギー、大学等のメンバーからは、オンライン講演会(講師：経済産業省 中原廣道環境政策課長)の内容や個社での取組みも踏まえ、地域でのGX推進、サプライチェーンを含めた脱炭素化、推進への課題等について、「スマート・リージョン北陸」実現に繋がる様々な意見やアイデアが出された。

地域での推進には産学官金・各自治体等、連携・共有がキーであり、北経連は、連携の触媒機能や情報提供・発信の役割を担い、地域として成功事例を積み上げることが大切との声が聞かれた。

WGは今後、DX、スタートアップ、DEI、ウェルビーイング等をテーマに、「スマート・リージョン北陸」実現のためのアイデアや取組み、北経連の役割等について話し合う予定。



カーボンニュートラルBASE北陸 勉強会 【テーマ：補助金・水素】

日 時：5月30日(金) 13:30-15:40
場 所：富山県民会館304号室
参 加：約130名

補助金および水素に関する勉強会を開催した。その後、会場参加者で情報交換会、補助金・支援策相談会を実施。

テーマ① 補助金の最新情報

・CN支援策(経済産業省中部経済産業局カーボンニュートラル推進室、以下、CN推進室)

テーマ② 水素導入の取組みと活用方法

- ・北陸における水素サプライチェーン導入に向けた「北陸広域圏水素ビジョン(仮称)」の策定(富山水素エネルギー促進協議会)
- ・嶺南地域の取組み(ふくい水素エネルギー協議会)
- ・水素社会実現に向けた最近の動き(CN推進室)

<補助金・支援策相談会> 富山県、石川県、中部経済産業局、中小機構が相談窓口を設置。

<情報交換会> 水素導入には各地固有の課題があり解決が必要、北陸のCN先進企業がリードし、中小企業も活発に参入する動きが必要等、様々な意見が聞かれた。



令和7年度福井県北陸新幹線建設促進同盟会総会

日 時：6月1日(日) 13:30-15:00
場 所：JA福井県小浜支店

福井県北陸新幹線建設促進同盟会の総会が小浜市内で開催された。会長の杉本福井県知事や市町長、福井県選出の国会議員、関西経済連合会の蔭山リニア・北陸新幹線専門委員長、北経連から金井会長が出席した。

杉本会長は開会挨拶で、「地域全体の力が集中することが小浜・京都ルート早期実現や小浜先行開業の初夢が正夢になる力と確信している」と語った。

金井会長は、「北陸新幹線には大きな経済波及効果とともに、国土強靱化の観点から大規模地震など太平洋側の有事に備え、首都圏と関西圏を結ぶ東海道新幹線の代替機能の確保、さらには日本海国土軸の形成など多くの機能が期待されており、これらの効果は東海道新幹線とは完全に別ルートである小浜・京都ルートで結んで初めて最大限発揮される」と述べ、敦賀・新大阪間の一日も早い認可・着工を実現するため、関係機関に対し「早期に詳細な駅位置・ルートを決定し、併せて着工5条件等の諸課題を解決するよう求めていく」と述べた。



第六次中期アクションプラン策定検討WG 第3回オンライン講演会

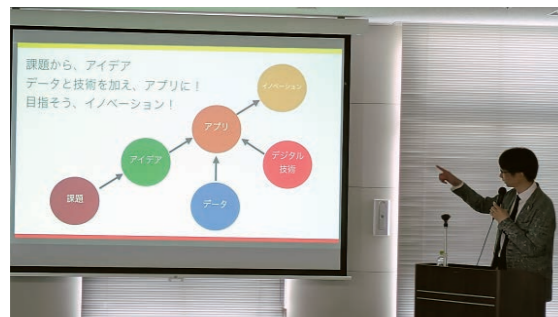
日時：6月6日（金）14:00-15:00
参加：44名（現地9名、オンライン35名）

第六次中期アクションプラン（実施時期：2026～2030年度）策定に向け、主要テーマについて有識者による講演会を開催した（全4回）。

第3回は、(株)jig.jpの福野泰介取締役創業者が「サイバーバレー、IT教育で北陸を新産業創出拠点に！」と題して講演した。

新事業創出やスタートアップ創出に向け、オープンデータの重要性と身近な活用例、テクノロジーによるまちづくりや次世代の育成等、ご自身の活動を踏まえた具体的かつ分かりやすい内容で、参加者からも非常に好評だった。

第4回（最終回）は、6月16日（月）15:00～、（公財）Well-being for Planet Earthの石川善樹代表理事を招き、一人当たりGRPを高めるDEIの進め方やウェルビーイングの捉え方について講演予定。



第六次中期アクションプラン策定検討WG 【第3回テーマ：DX、スタートアップ】

日時：6月6日（金）15:00-16:30
場所：福井県織協ビル
参加：9名

次期アクションプラン策定に向け、第3回検討WGを開催した。製造、通信、小売、エネルギー、大学等のメンバーから、オンライン講演会（講師：(株)jig.jp福野泰介取締役創業者）の内容も踏まえ、デジタルを活用した新事業創出に向けたアイデアや必要な体制等について、様々な意見が出された。

講師の福野氏からも、北陸がIT活用により人を呼び込み、新事業を生み出す地域になるための多くのヒントが出され、活発な議論が交わされた。

<意見交換内容（一部）>

- ・地域の中高生が地域課題を見つけ、解決の成功体験を重ねる場を用意すること、メンターの役割が重要（シビックテックの活用）。
- ・オープンデータは、住民だけでなく、観光客や移住者にとっても便利であり、域外からの人の呼び込みに寄与する。

- ・企業側には、自前主義一辺倒から脱却し、スタートアップを活用することが求められる。
- ・地域によりデジタル教育に差があり、先進的な取り組みを積極的に取り入れるべき。

次回WG（最終回）は、DEI・ウェルビーイングをテーマに開催する。



第六次中期アクションプラン策定検討WG 【第4回テーマ：DEI、ウェルビーイング】

日時：6月16日（月）16:00-17:30
場所：ANAクラウンプラザホテル金沢
参加：12名

次期アクションプラン策定に向け、第4回検討WGを開催した。メンバーから、オンライン講演会（講師：（公財）Well-being Planet for Earth石川善樹代表理事）の内容も踏まえ、自社の取組みや必要な体制・考え方等について、様々な意見が出された。

<意見交換の主な内容>

- ・個々のストレス特性を把握し、配属を行っている。特性を把握したチーム編成により、指示も伝わりやすく、コミュニケーションがとりやすくなった。
 - ・企業の成長や新事業創出に繋がる人材にきてもらい、良い状態で仕事に取り組んでもらうためには、現アクションプランの「企業の成長」の取組みの意識と、その姿勢の発信が大事。
 - ・現プランの「ダイバーシティ&インクルージョン」の取組みは、客観的WBの観点であるため、次は主観的WBに関する取組みが入るとよい。
 - ・WBに繋がる自社データをオープンにすることで、人材確保にも繋がる。
- 終了後には懇親会を開催し、議論を振り返るとともに、今後の北経連の役割に対する期待や要望を話すなど、交流を深めた。

事務局では、全4回のWGでの意見を踏まえ、今後具体的な計画・推進体制について検討する。



西日本経済協議会 広域観光分科会

日時：一日目：6月19日（木）14:40-17:30
二日目：6月20日（金）8:40-12:030
場所：一日目：パレスラン高志会館
二日目：富山市岩瀬地区
参加：17名（現地11名、オンライン6名）

一日目はコラリアルチザンジャパン代表の山川智嗣氏を迎え、「お抱え職人文化の再興」と題して、木彫刻のまち南砺市井波における、職人に弟子入りできる宿を発端とした観光振興について講演した。その後、各経済連合会の観光振興への取組みについて情報を共有し、意見交換を行った。

二日目は富山市岩瀬地区において、地元ガイドによる案内のもと、国指定重要文化財や古民家など歴史ある街並みのほか、元米蔵をリノベーションした醸造所などを視察した。



活動報告

能登地域の経済復興に向けた座談会

日時：6月25日(水) 11:30~14:00
(座談会終了後、七尾市中心部を視察)
場所：七尾商工会議所特別会議室
参加：13名(能登側9名、北経連側4名)

能登地域の経済復興に向け、各地で復興をリードする人材との座談会を開催した(七尾商工会議所との共同開催)。能登からは、商店街・温泉地・伝統産業・農家民宿・水産業・地域コミュニティ復活等の分野で復興に取り組む方々が参加し、「復興に向け足りないこと」「経済界に求めること」を話した。

稲垣副会長(総合対策委員長)は冒頭、「経済界としてしっかり取り組んでまいりたい。そのために、本日、実際の声を伺いながら、次の5年間も含めて少しでもお役に立てるよう考えていく。」と挨拶した。

能登の参加者からは、包丁・鋏等の修理を請負う職人プラットフォーム立上げや、地震後に移住する人が出始めているという足もとの動きのほか、応援してくれる人や提供できるサービスの内容がわかると有難い、プロジェクトの伴走企業を募集している、切磋琢磨しながら「能登はおもしろい」を発信することが大切、といった話が聞かれた。

参加した北経連会員からは、能登の発信に向け能登の良さを具体的に知りたい、移住者を惹きつける要素は何か、イギリスのミュージアムビジネスが参考になるのではないか、との発言があった。

杉野哲也七尾商工会議所会頭は全体を振り返り、「若い世代を中心に、復興に向け様々な挑戦がなされていることは大変心強く、元来の能登の文化である。今後、横の繋がりを作っていきたい」と述べた。

座談会終了後、七尾一本杉通の視察を実施した。座談会の様子をまとめ、後日トピックスで報告予定。



第1回 海外現地情勢報告セミナー ～ベトナム工業団地～

日時：6月30日(月) 14:00-15:30
形式：オンライン開催
参加：59名
内容：<登壇者>
・住友商事(株) 井口 里沙 氏
第二タンロン工業団地 Assistant to General Director
・双日(株) 石井 博之 氏
LONG DUC INVESTMENT COMPANY LTD. GENERAL DIRECTOR
・現地工業団地進出企業
古井 広之 氏(NAGATSU VIETNAM CO., LTD)
海津 寿明 氏(NAGAE VIETNAM LTD.)

高納委員長は冒頭挨拶で、当会の会員アンケート結果を踏まえ、ベトナムが生産拠点および市場として有望視されていること、さらに中国リスクの分散や代替市場の選定など、サプライチェーン再構築の重要性について訴えた。こうした背景をふまえ、当会ではベトナムへの進出や販路開拓、投資の可能性を探るため、9月にベトナムビジネス環境調査団を派遣することを発表した。

本セミナーでは、ベトナム工業団地の最新情報や現地インフラの整備状況、日本企業の進出状況などが報告され、現地工業団地への進出企業から

は、インフラの活用、現地人材の雇用、資材調達、現地法規制対応など、実際の作業環境に関する具体的事例が紹介され、臨場感のある貴重な情報が共有された。

アンケート結果においては、「大変参考になった」が70%、「参考になった」が26%となった。当会としては、本セミナーで得られた知見を今後の会員企業のベトナムでの事業展開に役立てたい。



ベトナム戦略的幹部研修

日時：7月3日(木)~4日(金)
場所：富山市、津田駒工業(株)、ニッコー(株)、(株)アクトリー

北経連・北陸AJECは、政策研究大学院大学、ベトナム共産党中央組織委員会、JICAによる幹部研修プロジェクトの一環として、ベトナムの副大臣・局長級13名の視察受け入れに協力した。

まず、富山市役所で藤井市長以下に迎えられ、公共交通を軸としたコンパクトシティ戦略による都市経営の構築とその深化型市民中心・データ駆動型スマートシティに関する研修を受講した。

翌日の企業視察では、津田駒工業(株)を訪問し、高納会長のご挨拶後、北野常務らが事業概要について説明した。その後、ショールームで最新の高性能織機の見学をはじめ、本社工場を視察した。

性能織機の見学をはじめ、本社工場を視察した。

次にニッコー(株)を訪問、三谷充会長、三谷明子社長らに迎えられ、ベトナムでの浄化槽プロジェクトや廃陶磁器を利用した再生肥料(BONEARTH)事業の説明を受けた後、陶磁器製造工場を視察した。

最後に(株)アクトリーを訪問し、水越社長のご挨拶後、主力事業である廃棄物処理の環境プラントについて、動画を交えて説明を受けた。その後、屋内緑化を施した本社社屋や環境プラントの製造工場、研究開発センターを視察した。

いずれの視察先においても、研修生からは活発な質疑が交わされ、自国と日本の違いや北陸企業の先進的な取り組みについて学ぶ貴重な機会となった。



ベトナム政府高官との交流懇親会

日時：7月4日(金) 18:00-19:30
場所：金沢ニューグランドホテル
主催：北経連/北陸AJEC・政策研究大学院大学国際協力機構(JICA)
参加：49名

ベトナム政府高官13名(副大臣・局長級)と会員北陸企業・団体との交流懇親会を開催した。

冒頭、高納国際委員会委員長、政策研究大学院大学の工藤教授、ヴォー・ティン・フン団長の挨拶後、中部経済産業局の伊藤地域経済部長が乾杯挨拶を行った。会場では、通訳を通じ、ベトナム行政の現状や北陸企業の取組み等について、活発な日越交流が行われ、日越双方の理解が深まった。中締め挨拶は北陸ベトナム相互企業進出促進協会の三谷会長が務め、北陸企業によるベトナム進出、特に地方展開の一層の活性化に期待を寄せた。



2025年度第1回総合対策委員会

日時：7月4日(金) 12:20~14:15
場所：ホテル日航金沢(オンライン併催)
参加：16名(現地：12名、オンライン4名)

稲垣委員長は冒頭挨拶で、「経済財政運営と改革の基本方針2025」(いわゆる骨太方針)が閣議決定されたことにふれ、物価上昇を上回る賃上げ、地方創生2.0の推進、投資の促進に資するGX・DXの推進、Well-being(ウェルビーイング・幸福度)の向上は、北陸経済連合会が掲げる「スマート・リー

ジョン北陸」に重なるものであり、実現に向け、今後の総合対策委員会の活動が重要と述べた。

委員会では、政府に対する北陸経済界からの要望書(案)、第六次中期アクションプラン(中間報告)について審議した。要望書(案)に対し、委員からは、「被災地の仮設・復興住宅へのインターネット等通信環境整備が必要」など具体的なご意見をいただいた。また、第六次中期アクションプランの中間報告に対しては、地域経済循環の考慮など、幅広い視点から活発な意見交換がなされた。いただいたご意見は、要望書ならびにアクションプランに反映してまいりたい。

また、6月25日に開催した「能登の経済復興に向けた座談会」について事務局より報告した。



北陸三県港湾利活用担当者勉強会

日時：7月11日(金) 14:00-16:45
場所：敦賀港国際ターミナル(株)会議室

北陸三県の連携を深める「北陸三県港湾利活用担当者勉強会」を2年ぶりに開催し、富山・石川・福井各県の港湾利用促進担当者が参加した。「敦賀港鞠山北地区・鞠山南地区」を視察した後、敦賀港国際ターミナル(株)会議室にて、各県担当者からポートセールスの現状と課題を説明し、港湾利用に関する意見交換や情報交換を行った。

第365回常任理事会

日時：7月15日(火) 12:20-13:15
場所：金沢ニューグランドホテル
参加：30名(会場24名、オンライン6名)

冒頭の挨拶で金井会長は、米国が関税政策を行うに至った背景や、今後の米国の通商政策を長期的観点から注視していく重要性について触れたほか、北陸新幹線敦賀以西延伸の動向と当会としての今後の政府に対する要望方針等について述べた。

続いて、2つの議案について審議が行われた。

まず、6月の定期総会以降の当会役員の人事異動等を踏まえた役員の補充選任を行い、常任理事に(株)スギノマシン 代表取締役社長 杉野 岳 氏、理事に(株)NTTデータ北陸 代表取締役社長 宇野 将人 氏を新たに選任した。

次に、今年度の「政府に対する北陸経済界からの要望書」(案)について審議を行い、原案どおり了承された。

【2025年度の重点要望事項】

- ・令和6年能登半島地震・奥能登豪雨からの復旧・復興
- ・北陸新幹線の大阪までの早期全線開業
- ・「地方創生2.0」に向けたGX・DX推進



「ツーリズムEXPOジャパン愛知・中部北陸」開催概要発表会見・第3回開催地連絡協議会

日時：7月16日(水) 13:45-
場所：TKPガーデンシティpremium名古屋駅前

ツーリズムEXPOジャパン愛知・中部北陸の開催概要発表会見が行われ、主催者である日本旅行業協会 高橋会長が開催概要について説明した。また、開催地側の一人として、東田専務が「北陸からは観光連盟に加え、地元ホテルの団体等も出展。北陸の自然、食、文化、伝統工芸等を発信する」「能登の観光産業は未だ復興の途上。能登に対する息の長いご支援をお願いしたい」と発言した。

引き続き、第3回開催地連絡協議会が行われ、愛知県大村知事が挨拶し、出席者各位が開催に向けた意気込みを語った。

「ツーリズムEXPOジャパン愛知・中部北陸」は、中部国際空港そばのAichi Sky Expo(愛知県国際展示場)において、9月25日(木)から28日(日)まで開催される。27日(土)・28日(日)は、一般来場者向けの旅行展示会とともに、岩田剛典さん、瀬戸朝香さんのトークイベントが予定されている。



2025年度 北経連スケジュール

開催日 (予定を含む)	主要行事	会場	備考
8月8日(金)	第32回北陸地域懇話会(北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇談会)	福井市	理事以上
8月22日(金)	三県知事との懇談会	金沢市	
8月27日(水)～28日(木)	第28回三経連経済懇談会・視察会	郡山市 会津若松市	理事以上
10月16日(木)	西日本経済協議会 第67回総会	京都市	
9月29日(月)～10月3日(金)	ベトナムビジネス環境調査	ハノイ/ホーチミン	
10月30日(木)	会員懇談会(石川)	金沢市	
11月19日(水)	第52回北陸地方経済懇談会(経団連との懇談会)	福井市	
11月28日(金)	会員懇談会(富山)	富山市	
12月10日(水)	第32回中部・近畿経済産業局との懇談会	福井市	理事以上
12月17日(水)	第366回常任理事会	金沢市	常任理事以上
1月下旬	新春経済懇談会	金沢市	
2月	会員懇談会(福井)	福井市	

北陸経済連合会《事務局》

(2025年8月現在)

専務理事	東田 隆一	課長	宮西 啓一
常務理事・事務局長	魚屋 敦司 (6月27日着任)	課長	宮原 史英子
事務局長代理	福井 聡	課長	宮下 愛美
部長	落合 章博	課長	澤田 晴美
部長	高島 哲史	課長	高橋 アカネ (4月21日着任)
部長	小島 正寛	主席調査役	西野 大我
副部長	鳥山 倫彦	主席調査役	成瀬 元貴
副部長	酒井 秀行	副課長	越野 理恵
副部長	池澤 崇宏		森岡 倫代
副部長	江戸 栄雄 (7月1日着任)		墨屋 小百合
副部長	宮本 尚和 (7月1日着任)		

新会員のご紹介 (2025年4月1日～2025年8月31日)

アルビス株式会社

(業種 食品小売業)

代表取締役社長 池田 和男 様
〒939-0402 富山県射水市流通センター水戸田3-4
Tel:0766-56-7200 Fax:0766-56-7520

オックスフォード大学出版局株式会社

(業種 出版業)

代表取締役社長 中村 清和 様
〒108-8386 東京都港区芝4-17-5
Tel:03-5444-2255 Fax:03-5444-6644

株式会社j i g . j p

(業種 ソフトウェア 企画・開発)

代表取締役社長CEO 川股 将 様
〒916-0036 福井県鯖江市横越町10-34-1
Tel:0778-51-8900 Fax:03-6824-9562

株式会社Leaner Technologies

(業種 情報サービス業)

取締役COO 田中 英地 様
〒141-0031 東京都品川区西五反田7丁目23-1 第3TOCビル9F
Tel:03-4500-8520

新規会員ご紹介のお願い

「人々が豊かで幸せに暮らす“スマート・リージョン北陸”の実現を目指す
“北経連”への新規会員ご紹介をお願いいたします。

富山、石川、福井の三県からなる北陸地域は、急速に発展している東アジア諸国と日本海を介して対面しているとともに、東京、名古屋、大阪の三大都市圏に対して扇の要に位置しております。また、特色ある産業・技術の集積や豊かな自然環境、多彩な歴史・文化など多くの優れた地域特性を有しており、日本と対岸諸国との結節点として、更なる発展の可能性を秘めた地域であります。

私ども北陸経済連合会(略称:北経連)は、北陸三県をはじめとする関係機関と連携を図り、北陸新幹線や高規格幹線道路、港湾などの社会資本整備の促進、東アジア諸国との経済交流の促進、産業の振興支援等に積極的に取り組んでおります。

地域の主体性がますます重要となっている今日、これまで以上に北陸三県の経済界の総力を結集し、関係機関との連携、協働を進めていかなければなりません。

北経連の活動にご賛同いただける企業・団体の皆様のご紹介を、心よりお待ちしております。

入会ご希望の皆様へ

入会資格: 本会の目的にご賛同いただける法人、団体および個人

入会金: 不要

年会費: 1口 90,000円(1口以上)

入会お申し込み: 下記、当会事務局までご連絡ください。

北陸経済連合会

〒920-0981
金沢市片町2-2-15北国ビルディング4階
TEL.076-232-0472 FAX.076-262-8127
HP <https://www.hokkeiren.gr.jp>
E-mail: info@hokkeiren.gr.jp



東京事務所
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3-2-1
霞が関コモンゲート西館24階
北陸電力(株)東京支社内
TEL.03-3502-0471
FAX.03-3502-0460



訪れるたび、新しい物語が紡がれる。
あなただけの「北陸物語」に
出会ってください。

北陸物語HPでは、7つのエリア・7つのカテゴリから様々なスポットを検索できる北陸三県の情報をはじめ、
多様な切り口で楽しめるテーマ旅の提案、自分に合ったおすすめの旅を診断できる「ほくりく旅診断」など、
北陸をより一層楽しめるコンテンツが充実しています。ぜひ、ご覧ください。

北陸三県（富山・石川・福井）をつなぐ、唯一の広域観光情報サイト
北陸物語 <https://monogatari.hokuriku-imageup.org/>



多様な切り口で楽しめるテーマ旅の提案

あなたにぴったりの
北陸旅がわかる
「ほくりく旅診断」

北陸物語事務局：北陸経済連合会・北陸イメージアップ推進会議

金沢市片町2丁目2番15号 TEL:076-232-0472 mail:kankou01@hokkeiren.gr.jp

北陸イメージアップ推進会議は、昭和61年9月に、北陸経済連合会と北陸三県（富山県・石川県・福井県）、北陸電力株式会社が共同で北陸の正しい実態を広く北陸地域以外の人々に認識して頂き、北陸のイメージアップを図ることを目的として設立されました。



北陸経済連合会

〒920-0981 金沢市片町2丁目2番15号(北国ビルディング4階)

TEL(076)232-0472(代) FAX(076)262-8127

URL: <https://www.hokkeiren.gr.jp>

Email: info@hokkeiren.gr.jp